

助成事業実施報告書

団体名 NPO 法人 Matsudo 子どもの未来へ with us
代表者・役職名 氏名 高橋 亮・代表理事

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

松戸子ども食堂サマーキャンプ 2022 自然体験プログラム

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

松戸市内の子ども食堂を利用している子どもたち 22 名が、1泊2日のサマーキャンプに参加し自然体験活動を経験しました。弊団体が主催し、NPO 法人千葉自然学校(<https://www.chiba-ns.net/>)が自然体験プログラムの企画運営を行いました。

2022年8月24日と25日の両日にかけて、子どもたちは海岸アドベンチャー・ビーチコーミング・プラネタリウム見学と夜空ウオーク・キャンプファイア等の自然活動を体験しました。感染予防の徹底を考慮して、自然プログラム及び宿泊は千葉県南房総市の公的施設である「大房岬自然の家」

(<http://taibusajp/>)を使用し、松戸市内の集合場所から「自然の家」までの往復は貸し切りバスを利用しました。

弊団体の理事とボランティアから8人の大人と高校生・大学生の学生ボランティア5名が随行し、子どもたちの体験活動の見守りを行いました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

松戸市内の子ども食堂を利用している子どもたち 22 名(小3～中2)が、千葉県南房総市の「大房岬自然の家」にて1泊2日の自然体験活動を経験しました。

子どもたちにとっては、森林や海などの豊かな自然とふれあう機会、ほかの子ども食堂から参加している新しい仲間と知り合い一緒に活動・宿泊する経験、海岸アドベンチャーでは海に飛び込む挑戦と達成感等、非日常的な体験から喜びと学びを感じた2日間であったようです。この2年間のコロナ禍で宿泊を伴う学校行事が中止になり、家族旅行の経験をできない家庭の子どもにとっては泊まりの旅行が初めてというケースもありました。「初めて海に来た！初めてマシュマロを食べた！今日は最高だ！」と言って飛び跳ねる子どもを見て、この体験イベントが与えたインパクトを実感しました。本取り組みは子ども食堂を通して子どもたちに日ごろできない体験を提供することで「非認知能力」や「成功体験」を提供し自己肯定感を高める一助になったと思います。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

体験活動に参加する子ども・保護者が負担する参加費は最小限に設定しましたが、負担できない家庭があり、ケースによって免除しました。また、子どもたちが持参する衣服・備品の出費をおさえるために主催者側で備品のいくつかを急遽用意しました。今後はそのような費用も事業計画時に予算しておくべきだと学びました。

子ども食堂を通して地域の子どものために普段はできない自然体験活動を提供する試みは今回が初めてでしたが、今後も同様の企画を計画・実施して「体験の貧困」の問題に取り組んでいきたいと思っています。来年度も同様にサマーキャンプの実施を継続していきたいし、冬の自然体験活動(スキー等)やほかの文化・社会体験活動などにも広げていきたいと思っています。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

